

ダイワ米国株ストラテジー α (通貨選択型) ートリプルリターンズー

日本円・コース(毎月分配型)／豪ドル・コース(毎月分配型)／ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)／

米ドル・コース(毎月分配型)／通貨セレクト・コース(毎月分配型)

分配金のお知らせ

2016年6月7日

平素は、『ダイワ米国株ストラテジー α (通貨選択型) ートリプルリターンズー』をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、2016年6月7日に決算を迎え、「豪ドル・コース」、「ブラジル・リアル・コース」および「米ドル・コース」につきましては分配金額を見直し、当期の収益分配金(1万口当たり、税引前。以下同じ。)をそれぞれ以下のとおりと致しましたことをご報告申し上げます。

「日本円・コース」および「通貨セレクト・コース」の分配金額につきましては、前回決算と同額と致しました。

今後ともファンド運用にあたっては、パフォーマンスの向上をめざしてまいりますので、引き続きお引き立て賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

《各コースの分配金（1万口当たり、税引前）》

	日本円・コース	豪ドル・コース	ブラジル・リアル・コース	米ドル・コース	通貨セレクト・コース
当期決算 分配金	90円	100円	70円	200円	100円
(前回決算 分配金)	(90円)	(150円)	(100円)	(300円)	(100円)
基準価額 2016年6月7日現在	7,925円	5,985円	3,860円	9,217円	5,184円

※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

分配方針

『ダイワ米国株ストラテジー α (通貨選択型) ートリプルリターンズー』の収益分配方針は、以下のとおりとなっています。

- ① 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とします。
- ② 原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。
ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

※分配金額は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社(大和投資信託)が決定しますので、将来の分配金額について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金額の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものです。■当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。■投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。■分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。販売会社等についてのお問い合わせ⇒ 大和投資信託 フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

Q1 なぜ、「豪ドル・コース」および「ブラジル・レアル・コース」の分配金が引き下げられたのですか？

A1 取引対象通貨の対円為替レート下落などにより基準価額が軟調に推移していることなどを、総合的に勘案した結果によるものです。

弊社の分配金の考え方は、ファンドの収益分配方針、配当等収益の水準、基準価額の水準、市場環境等を総合的に勘案して分配金額を決定するというものです。

「豪ドル・コース」および「ブラジル・レアル・コース」の分配金を引き下げましたのは、基準価額の水準などを総合的に勘案した結果によるものです。

各コースは第48期決算(15/10/7)において、取引対象通貨の対円為替レート下落などにより基準価額が下落し、各コースで期待されるインカム性収益も減少傾向にあったことから、分配金を「豪ドル・コース」は従来の200円から150円に引き下げ、「ブラジル・レアル・コース」は従来の150円から100円に引き下げました。

その後、投資対象である米国株式は2016年1月から2月にかけて原油安や中国をはじめとする世界経済の先行き不透明感から下落する場面もありましたが、3月以降は好調な米国経済指標や原油価格の反発を受け、堅調に推移しています。しかし、為替市場では、リスク回避的な動きや米国の利上げペースが緩やかになるとの見通しから円高米ドル安が進みました。それに伴い、取引対象通貨である豪ドルやブラジル・レアルも対円で下落しました。各コースでは米ドル建ての資産に対して米ドル売り／取引対象通貨買いの為替取引を行なっていますので、取引対象通貨の下落により基準価額の水準も低下してきています。

また、基準価額の水準が低下したことにより各コースで期待されるインカム性収益の水準も減少してきています。各コースの場合、インカム性収益とは、①米国株式の配当金、②株式カバードコール戦略で得られるオプションプレミアム、③為替取引によるプレミアム(取引対象通貨と米ドルの金利差相当分の収益)が該当します。

足元の分配金と基準価額の水準などを考慮し、今後も継続的な分配を行ない、基準価額下落を抑え信託財産の成長をめざすためには、分配金の引き下げが必要との判断に至りました。今回、分配金を引き下げたことによる差額はファンドの純資産に留保されることとなります。

※分配金額は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社(大和投資信託)が決定しますので、将来の分配金額について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金額の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。

Q2 なぜ、「米ドル・コース」の分配金が引き下げられたのですか？

A2 米ドルの対円為替レートの下落などにより基準価額が軟調に推移していることなどを、総合的に勘案した結果によるものです。

弊社の分配金の考え方は、ファンドの収益分配方針、配当等収益の水準、基準価額の水準、市場環境等を総合的に勘案して分配金額を決定するというものです。

「米ドル・コース」の分配金を引き下げましたのは、基準価額の水準などを総合的に勘案した結果によるものです。

当該コースは第38期決算(14/12/8)以降300円の分配金を継続しておりましたが、特に2015年12月以降は原油安や中国をはじめとする世界経済の先行き不透明感に加え、米国の利上げペースが緩やかになるとの見通しから円高米ドル安が進んだため、基準価額の水準も低下してきています。

足元の分配金と基準価額の水準などを考慮し、今後も継続的な分配を行ない、基準価額の下落を抑え信託財産の成長をめざすためには、分配金の引き下げが必要との判断に至りました。今回、分配金を引き下げたことによる差額はファンドの純資産に留保されることとなります。

※分配金額は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社(大和投資信託)が決定しますので、将来の分配金額について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金額の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。

《基準価額・純資産・分配の推移》

【豪ドル・コース】

基準日：2016年6月7日

基準価額	5,985円
純資産総額	74億円

《分配の推移》(1万口当たり、税引前)

決算期	(年/月/日)	分配金
第1～51期	合計:	9,090円
第52期	(16/2/8)	150円
第53期	(16/3/7)	150円
第54期	(16/4/7)	150円
第55期	(16/5/9)	150円
第56期	(16/6/7)	100円
分配金合計額	設定来:	9,790円
	直近5期:	700円



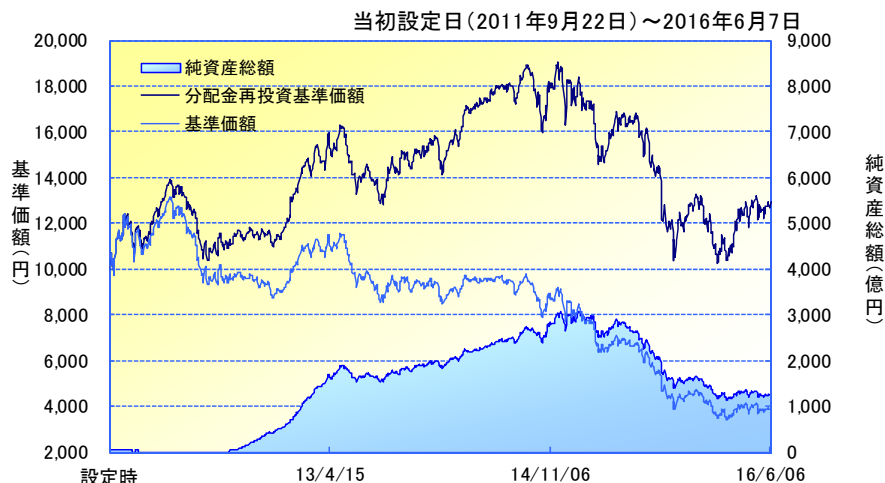
【ブラジル・リアル・コース】

基準日：2016年6月7日

基準価額	3,860円
純資産総額	1,237億円

《分配の推移》(1万口当たり、税引前)

決算期	(年/月/日)	分配金
第1～51期	合計:	9,390円
第52期	(16/2/8)	100円
第53期	(16/3/7)	100円
第54期	(16/4/7)	100円
第55期	(16/5/9)	100円
第56期	(16/6/7)	70円
分配金合計額	設定来:	9,860円
	直近5期:	470円



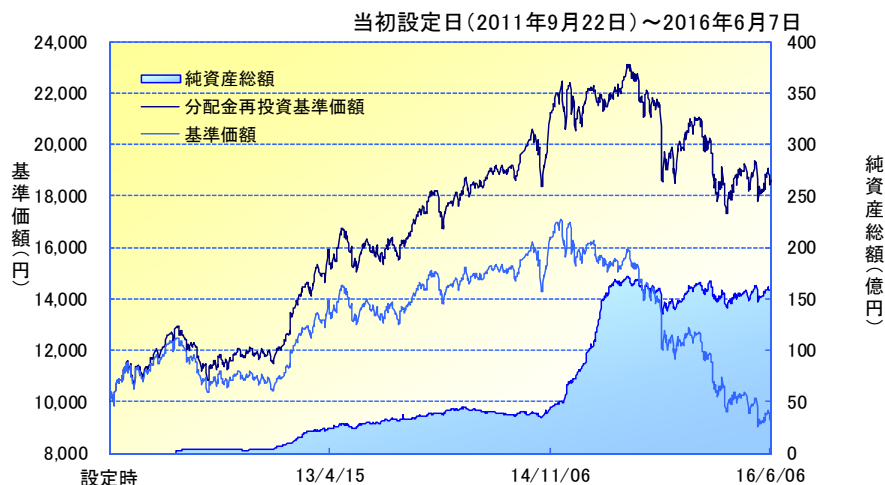
【米ドル・コース】

基準日：2016年6月7日

基準価額	9,217円
純資産総額	155億円

《分配の推移》(1万口当たり、税引前)

決算期	(年/月/日)	分配金
第1～51期	合計:	7,590円
第52期	(16/2/8)	300円
第53期	(16/3/7)	300円
第54期	(16/4/7)	300円
第55期	(16/5/9)	300円
第56期	(16/6/7)	200円
分配金合計額	設定来:	8,990円
	直近5期:	1,400円



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。
 ※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
 ※分配金額は、決算の都度、収益分配方針に基づいて委託会社(大和投資信託)が決定しますので、将来の分配金額について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、分配金額の変更あるいは分配金が支払われない場合もあります。

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

Q3 分配金はどのように決定したのですか？

A3 分配金は、収益分配方針に基づいて、今後数期にわたって継続できるよう配慮して決定しています。ただし、将来の分配金額について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。

当ファンドの収益分配方針において「原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。」と定めています。当該方針に基づいて分配金は、今後数期にわたって継続できるよう配慮して決定しています。ただし、将来の分配金額について、あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。今後の市場環境や運用状況によっては、現在の分配金の水準を維持できない、あるいは分配金が支払われない場合もあります。特にインカム性収益の低下、基準価額の下落などは分配金の引き下げ要因となります。

Q4 分配金を事前に知ることはできないのですか？

A4 決算日(毎月7日、休業日の場合は翌営業日)の夕方から夜にかけての公表までは、分配金をご確認いただくことはできません。

分配金は事前に決定しているものではなく、ファンドの決算日(毎月7日、休業日の場合は翌営業日)に、ファンドの収益分配方針、配当等収益の水準、基準価額の水準、市場環境等を勘案して委託会社(大和投資信託)が決定します。したがって、事前にお知らせすることはできません。

なお、委託会社のホームページ(<http://www.daiwa-am.co.jp/>)では、夕方から夜にかけて基準価額とともに分配金を公表しますので、そちらをご参照ください。

Q5 分配金を引き下げということは、今後の運用に期待できないということですか？

A5 分配金の引き下げは、今後の運用実績とは何ら関係するものではありません。

今回の「豪ドル・コース」、「ブラジル・リアル・コース」および「米ドル・コース」の分配金引き下げについては、取引対象通貨や米ドルの対円為替レートの下落による基準価額の下落などを総合的に勘案し、決定しました。したがって、今回の分配金の引き下げは、今後の運用実績とは関係するものではありません。なお、運用成績は、分配金に加え基準価額の動きも含めたトータルリターン(総収益率)で確認する必要があります。引き続きパフォーマンスの向上をめざしてまいります。

Q6 最近の投資環境と今後の見通しについて教えてください。

A6 米国株式市場について、当ファンドのような割安株に投資する長期投資家にとっては、投資の好機といえると考えています。また、為替市場においても、米国の利上げペースは緩やかなものにとどまるとみられ、取引対象通貨も底堅い動きになると考えられます。

【投資環境(2015年10月以降)】

➤ 株式市況

2015年10月の米国株式市場は、原油価格の上昇が好感されたほか、発表されたFOMC(米国連邦公開市場委員会)議事録がFRB(米国連邦準備制度理事会)の利上げに対する消極的な姿勢を示すものと受け止められたことから、上昇しました。11月から12月にかけては、ECB(欧州中央銀行)による追加金融緩和や原油価格の動きなどをめぐり、一進一退の展開となりましたが、2016年1月に入ると、中国景気に対する懸念や原油価格の急落を受けて大きく売られ、大幅に下落しました。2月に入っても、上旬は米国の景気後退に対する懸念の高まりや原油価格の一段安などを背景に再び下落しましたが、中旬を過ぎるとリスク回避の流れが一段落し、上昇へと転じました。その後は5月にかけて、米国の景気に対する懸念が弱まったことや、原油価格の上昇、ECBによる追加金融緩和策の発表などを背景に、おおむね上昇基調で推移しました。

➤ 為替市況

(豪ドル)

堅調な経済指標の発表を受けて、豪州の利下げ観測が徐々に後退し、豪ドルの対円レートは堅調に推移していましたが、2016年に入ると、中国株をはじめ世界の株式市場が下落し、中国を主要貿易相手とする豪州経済への懸念もあり、豪ドルは下落しました。1月末からは日銀のマイナス金利導入の決定や世界的に株式市場が上昇したことなどから、豪ドルは対円で上昇する場面もありましたが、5月の利下げ発表を受けて豪ドルは再度下落しました。

(ブラジル・レアル)

ブラジル経済の景気後退や、財政状況の継続的な悪化および不透明な政治状況を背景に、主要格付会社がブラジルの長期格付けを引き下げたことなどから、ブラジル・レアル安が進行しました。しかし、2016年3月以降は、ルセフ大統領の職務停止により、暫定新政権下での金融政策および財政政策への期待が高まっていることなどからレアルは対米ドルでは上昇に転じました。対円でも上昇に転じましたが、円高米ドル安の影響を受け小幅の反発にとどまりました。

(米ドル)

2015年12月以降は、原油安や中国をはじめとする世界経済の先行き不透明感から、リスク回避的な動きが広がり円高米ドル安が進行しました。1月に日銀によるマイナス金利導入の決定が発表された際には円安米ドル高となりましたが、その後、米国の利上げペースが緩やかになるとの観測が広がったことや、4月の日銀の金融政策決定会合で追加緩和が見送られたことから、円高米ドル安が進行しました。

※ドイツ証券のコメントを基に大和投資信託が作成したものです。

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

よくあるご質問 (Q&A集)

【今後の見通し】

➤ 株式市況

売上高のマイナス成長が続いているにもかかわらず、利益率の上昇を通して、米国企業の生み出す現金収益は安定的に推移しています。足元の米国株式の割高度合いは2002年以降で見ると高い状況にありますが、平均的な銘柄と割安な銘柄との差は拡大しており、割安株に投資する長期投資家にとっては投資の好機といえると考えています。

➤ 為替市況

(豪ドル)

物価指標の下振れなどをを受けて、豪州では5月に利下げが実施されましたが、中国など新興国の景気鈍化懸念が払拭されない中、追加利下げへの期待が残存している状況です。利下げ期待が残存する中で、豪ドルは引き続き上値の重い相場展開になるとみています。ただし、雇用環境など国内景気は比較的堅調であり、株式市場や原油および鉄鉱石などの商品価格が底堅く推移すれば、豪ドルも底堅い動きになると考えられます。

(ブラジル・リアル)

原油価格の上昇や先進国の金融政策に急激な変化が見込まれないことや、世界的に株式市場が堅調なことから、投資家のリスク回避姿勢が和らぎ、ブラジル・リアルの上昇要因となっています。ブラジル国内の材料では、不安定な政治動向が引き続き注目されます。政権交代により混乱している状態が刷新され、今後の政治力が回復することに期待が高まっています。ただし、暫定政権内にも汚職疑惑があり、失望を招く可能性も高まっています。また、財政状況は以前と変わっておらず財政再建策に関する審議もルセフ大統領の弾劾手続きにより停滞しているため、短期的には、楽観的な見方の持続性に注意する必要があると思われます。中長期的には、景気低迷と高インフレの中、財政悪化に歯止めをかけることができるかどうか注目されます。

(米ドル)

5月の米国雇用統計が米国の雇用情勢の改善が鈍っている可能性があることを示唆したため、先週末から為替市場は再び円高に振れています。しかし、米国は完全雇用に近い賃金上昇への懸念があるため、米国が金融政策の正常化を進めていることを背景とした日米の金融政策の方向性の違いは今後も残ると思われます。また、米国景気は1-3月期の減速から回復基調にあり、米国経済の相対的な優位性も米ドル円相場を下支えするとみられます。

※ドイツ証券のコメントを基に大和投資信託が作成したものです。

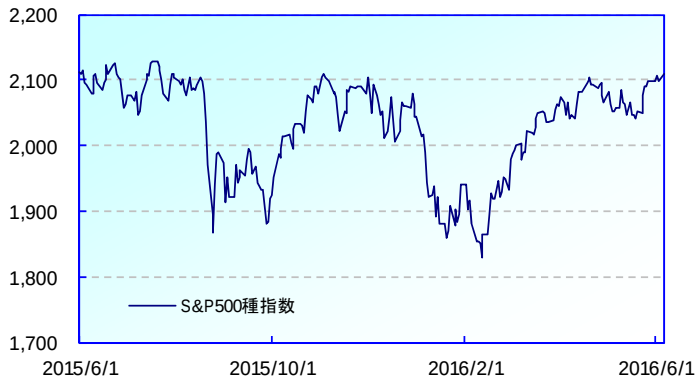
※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

以上

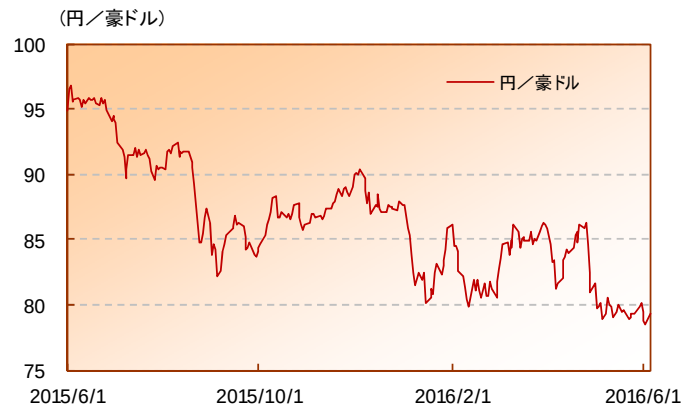
《参考》市況データ

(2015年6月初～2016年6月6日)

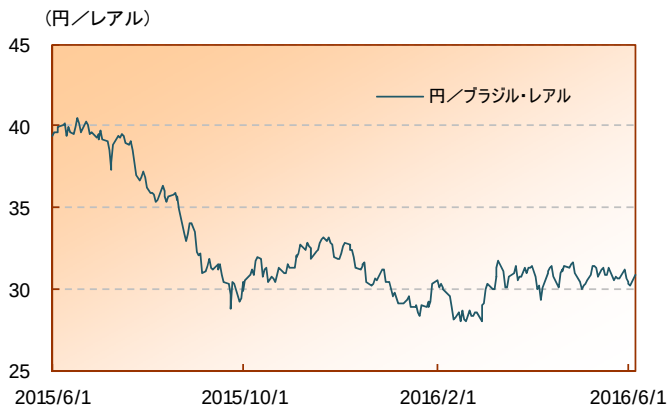
S&P500種指数の推移



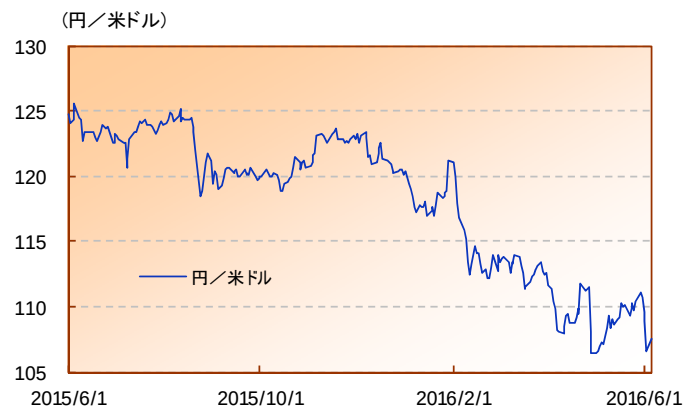
豪ドルの推移



ブラジル・レアルの推移



米ドルの推移



(出所)ブルームバーグより大和投資信託作成

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

収益分配金に関する留意事項

- ◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

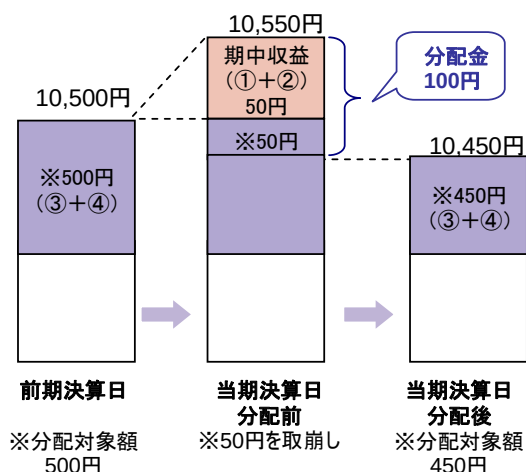
投資信託で分配金が支払われるイメージ



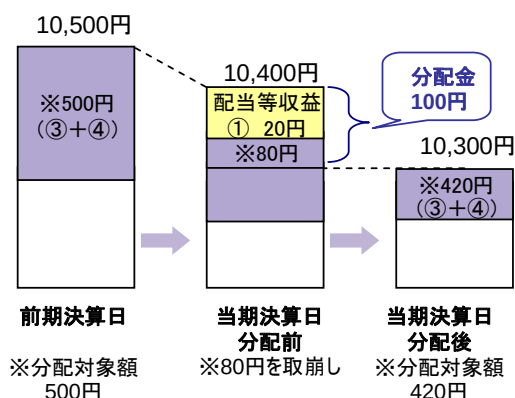
- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



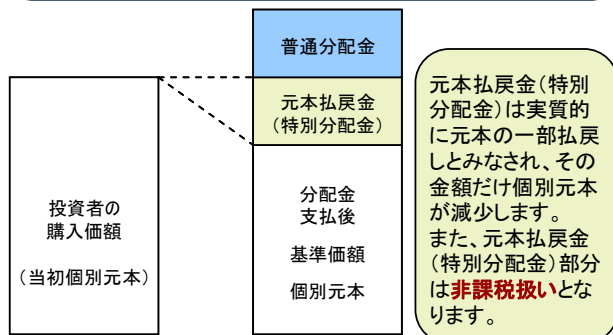
前期決算日から基準価額が下落した場合



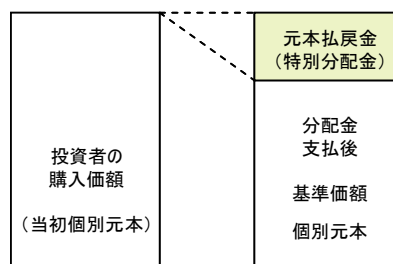
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

- ◆ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金)額だけ減少します。

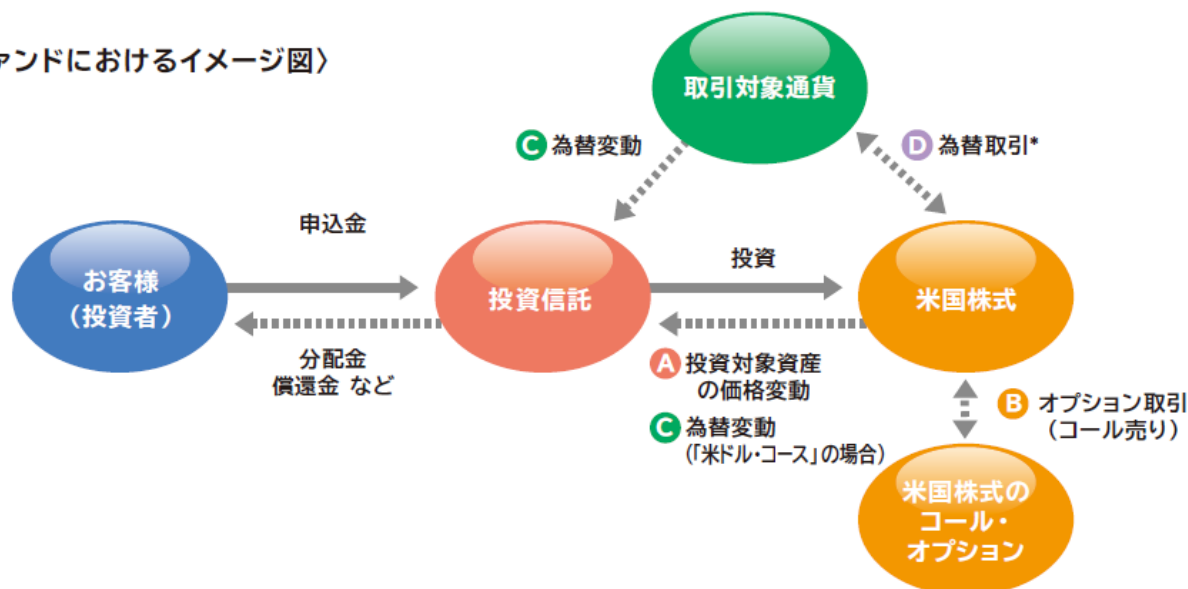
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

※1ページ目の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

通貨選択型ファンドの収益のイメージ

- 通貨選択型の投資信託は、株式や債券などといった投資対象資産に加えて、為替取引の対象となる円以外の通貨も選択することができるよう設計された投資信託です。
- 当ファンドでは、米国の株式に投資するとともに、個別株オプション取引および為替取引を活用します。

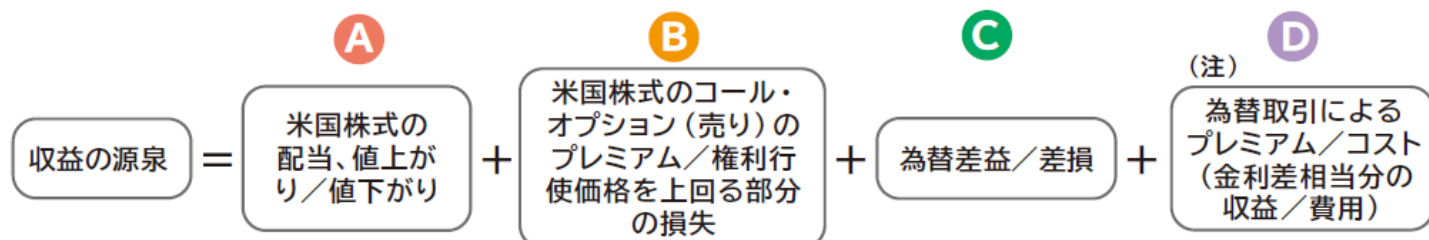
〈当ファンドにおけるイメージ図〉



*取引対象通貨が円以外の場合には、当該取引対象通貨の対円での為替リスクが発生することに留意が必要です。

- 当ファンドの収益源としては、以下の要素が挙げられます。

これらの収益源に相応してリスクが内在していることに注意が必要です。



収益を得られるケース	損失やコストが発生するケース
権利行使価格を上回る株価の上昇 株価の上昇、配当収入 相殺 株価の下落 ・発行企業の経営不安、倒産等	コール・オプション (売り) のプレミアムの受け取り 権利行使価格を上回る部分の損失の発生 ・権利行使価格を上回る株価の上昇
・円に対して取引対象通貨高 ・円に対して米ドル高 (「米ドル・コース」の場合) 為替差益の発生 為替差損の発生 ・円に対して取引対象通貨安 ・円に対して米ドル安 (「米ドル・コース」の場合) *「日本円・コース」を除きます。	取引対象通貨の短期金利 > 米ドルの短期金利 プレミアム (金利差相当分の収益) の発生 コスト (金利差相当分の費用) の発生 取引対象通貨の短期金利 < 米ドルの短期金利 *「米ドル・コース」を除きます。

(注) 為替取引を行なう際にNDF取引を利用することがあります。

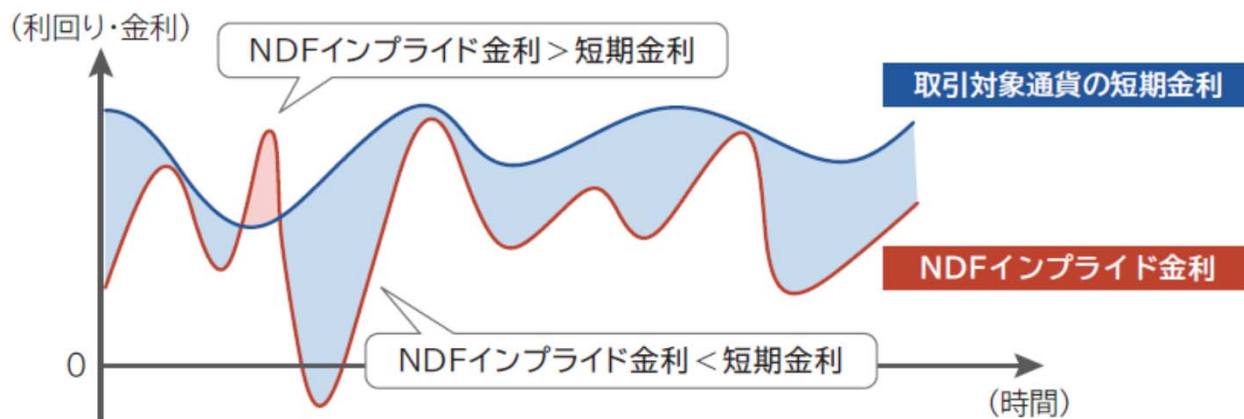
NDF取引を用いて為替取引を行なう際、為替取引によるプレミアム／コスト (金利差相当分の収益／費用) は、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。

※上記はイメージであり、実際の投資成果を示唆、保証するものではありません。

NDF取引とは

- ◆取引対象通貨を用いた受け渡しは行わず、米ドル等の主要通貨による差金決済を相対で行なう取引です。
- ◆NDF取引価格から算出される“NDFインプライド金利”は、市場の流動性が低く、割高や割安を是正する動き（裁定）が働きにくいことから、市場参加者の期待や需給などの要因により、**取引対象通貨の短期金利の水準から大きく乖離する場合があります。**

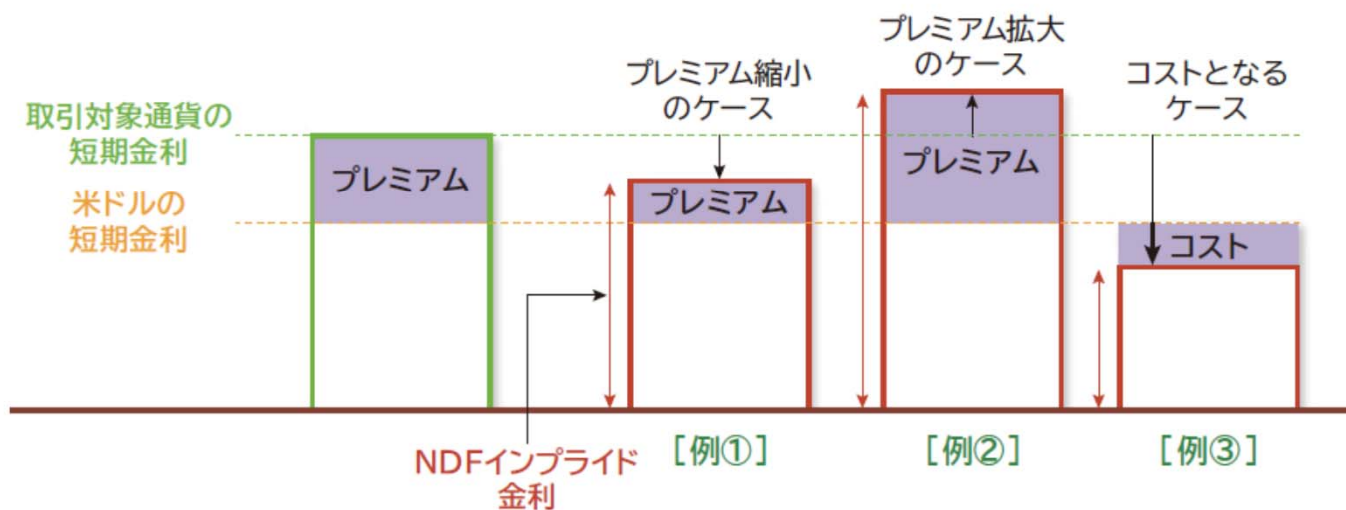
NDFインプライド金利と取引対象通貨の短期金利が乖離するイメージ



※上記はイメージであり、当ファンドのパフォーマンスとは異なります。

NDFインプライド金利の変動の影響

- ◆市場参加者の通貨上昇（下落）期待や需給などにより、NDFインプライド金利は低く（高く）なる可能性があります。NDFインプライド金利が取引対象通貨の短期金利より低く（高く）なると、**為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）が縮小【例①】（拡大【例②】）し、場合によっては為替取引によるコスト（金利差相当分の費用）となるケース【例③】**もあります。



※上記はイメージであり、実際のプレミアム／コストとは異なります。

※上記は投資成果を示唆、保証するものではありません。

ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー 日本円・コース(毎月分配型)／豪ドル・コース(毎月分配型)／ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)／ 米ドル・コース(毎月分配型)／通貨セレクト・コース(毎月分配型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

- 割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

1. 割安と判断される米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築します。
2. 為替取引を活用します。

- ◆当ファンドには次の5つのコースがあり、「米ドル・コース」を除き、米ドル建ての資産に対して米ドル売り／対象通貨買いの為替取引を行ないます。

コース名	為替取引の内容	取引対象通貨
 日本円・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／日本円買い	日本円
 豪ドル・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／豪ドル買い	豪ドル
 ブラジル・リアル・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／ブラジル・リアル買い	ブラジル・リアル
 米ドル・コース	_____	_____
 通貨セレクト・コース	米ドル建ての資産に対して 米ドル売り／選定通貨買い	選定通貨

※5つのコースの間でスイッチング(乗換え)を行なうことができます。

- ◆「米ドル・コース」以外の各コースでは、為替取引を行なうことにより、「為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)／コスト(金利差相当分の費用)」が生じます。
- ◆「日本円・コース」では、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。
- ◆「日本円・コース」以外の各コースでは、為替取引の対象通貨の対円レートの上昇(円安)／下落(円高)により、為替差益／為替差損が生じます。
- ◆「通貨セレクト・コース」において、選定通貨とは、以下の<通貨の運用方針>により、為替取引の対象通貨として選定された通貨をいいます。

<通貨の運用方針>

- 原則として、「シティ世界国債インデックス」および「JPモルガン ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット ブロード」の構成国の通貨の中から、金利水準、リスク水準、ファンダメンタルズ、流動性等を考慮し、6つの通貨を選定します。
- ※上記指数構成国の通貨以外の通貨を選定する場合もあります。
- 選定通貨の投資比率は、金利水準、リスク水準等を考慮して決定します。
- 選定通貨および投資比率は、原則、毎月見直します。

ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー

日本円・コース(毎月分配型)／豪ドル・コース(毎月分配型)／ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)／
米ドル・コース(毎月分配型)／通貨セレクト・コース(毎月分配型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの目的・特色

3. 毎月7日(休業日の場合翌営業日)に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。
4. 当ファンドは、複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
 - ◆外国投資信託の受益証券を通じて、米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築するとともに、「米ドル・コース」を除き、米ドル建ての資産に対して為替取引を行ないます。
 - ◆当ファンドが投資対象とする外国投資信託では、直接株式への投資やオプション取引を行わず、担保付スワップ取引を通じて、米国の株式とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の損益を享受します。

- ◆各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。
- ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー 日本円・コース(毎月分配型)
：日本円・コース
 - ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー 豪ドル・コース(毎月分配型)
：豪ドル・コース
 - ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)
：ブラジル・リアル・コース
 - ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー 米ドル・コース(毎月分配型)
：米ドル・コース
 - ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー 通貨セレクト・コース(毎月分配型)
：通貨セレクト・コース
- ◆上記の総称を「ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー」とします。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価の変動(価格変動リスク・信用リスク)」、「カバードコール戦略の利用に伴うリスク」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「スワップ取引の利用に伴うリスク」、「その他(解約申込みに伴うリスク等)」

＜日本円・コース＞

※為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

※日本円の金利が米ドルの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなります。

＜豪ドル・コース、ブラジル・リアル・コース、通貨セレクト・コース＞

※取引対象通貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。新興国通貨の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国通貨と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。

※投資対象資産の通貨である米ドルの為替変動リスクを完全に排除することはできませんので、基準価額は円に対する米ドルの為替変動の影響を受ける場合があります。また、取引対象通貨の金利が米ドルの金利より低いときには、金利差相当分がコストとなります。

＜米ドル・コース＞

※組入外貨建資産について、米ドルが円に対して米ドル安の方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。

※NDF 取引を用いて為替取引を行なう場合、コストは需給や規制等の影響により、金利差から期待される水準と大きく異なる場合があります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご覧ください。

ダイワ米国株ストラテジーα(通貨選択型)ートリプルリターンズー

日本円・コース(毎月分配型)／豪ドル・コース(毎月分配型)／ブラジル・リアル・コース(毎月分配型)／
米ドル・コース(毎月分配型)／通貨セレクト・コース(毎月分配型)

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 (上限)3.24%(税抜3.0%) スイッチング(乗換え)による購入時の申込手数料については、販売会社にお問合わせください。	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	0.5%	換金に伴い必要となる費用等を賄うため、換金代金から控除され、信託財産に繰入れられる額。換金申込受付日の翌営業日の基準価額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 (信託報酬)	年率 1.323% (税抜 1.225%)	運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。
投資対象とする 投資信託証券	「日本円・コース」、「豪ドル・コース」、「ブラジル・リアル・コース」、「米ドル・コース」 年率 0.68%程度 「通貨セレクト・コース」 年率 0.83%程度	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	「日本円・コース」、「豪ドル・コース」、「ブラジル・リアル・コース」、「米ドル・コース」 年率 2.003%(税込)程度 (純資産総額によっては上回る場合があります。) 「通貨セレクト・コース」 年率 2.153%(税込)程度 (純資産総額によっては上回る場合があります。)	
その他の費用・ 手数料	(注)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」に記載しています。

販売会社:

大和証券

Daiwa Securities

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用:

大和投資信託

Daiwa Asset Management

商号等 大和証券投資信託委託株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会